

## 老後はどこに住みますか？



シビル NPO 連携プラットフォームサポーター  
SLIM Japan 理事 神 弘夫

最近知人が老人ホームに移ったと聞く、あるいは老人ホームに転居したとの挨拶状を貰うことが多くなった。これをきっかけに「老後をどこで暮らすか」を考えるようになった。現在は浦安市に妻と二人住まいで、結婚し別世帯で暮らす 3 人の娘がいる。娘たちの配偶者は生れも育ちも東京で、5 人の孫は浦安市と都内で暮らしている。老後の住まいを考えるうえでの三大コストが、健康維持費、居住を含めた生活費及び友人・家族との交流費であるとすれば、東京に根が生えた家族を考えると北九州育ちで 1967 年に就職し東京に出てきた自分であっても、Uターンするなどの選択肢はなく、首都圏以外の地域は考えられなかった。こんな動機で今年 3 月発足した南房総 CCRC 事業研究会にサポーターとして参加し幹事役を務めている。

研究会のメンバーは 9 人でシニア技術者と現役の建設業関係者であり、月に一度会合を開き既存 CCRC の情報収集や分析を行い目指すコンセプトを話し合った。10 月には既存 CCRC 及び候補地の現地見学会も行い、重要な以下のことを確認した。①高齢者が施設に入るきっかけは、必ずしも介護状態に陥るのを心配してでなく、会社を辞め仲間を失う、あるいは配偶者を失うことで社会から孤立するのを避けるためである ②高齢者施設といえば寝たきり老人をイメージするが、その反対に多くの高齢者がガヤガヤと食事をともし、趣味やスポーツを楽しめる環境を整備した CCRC が規模も大きく、移住先として人気が高いことが分かった。このことは介護重視の住環境でなく、広いバリアフリーの居室に住み、趣味やスポーツを楽しめる住環境の方が高齢者の移住先として好まれることを意味しており、われわれの CCRC もこの方向を目指すことになった。

また既存 CCRC にはない新たな視点として、高齢者も働き収入を得ることが生きがいにつながり、経済的な不安解消に欠かせない、そのためにはテレワークが可能な IT 環境の確保が欠かせない、また周辺住民との交流から新たな仕事生まれる機会があるとの指摘がシニア技術者からあった。南房総地域は都心から 70km 以上離れ交通が不便なことから過疎化しているが、海も山もあり地価は安い。そのうえ過疎化で安く買える空き家もあるし、ゴルフコースまでそろっている。近くには亀田総合病院、医療大学もある。可能な限り既存インフラを活用し初期投資を抑えつつ「ぜひ移住したい」と思える CCRC プランを作るのがメンバー全員の願いである。

建設業界の委員からは、CNCP、土木学会、建設業界関係者を通して広く計画を PR し、マーケットを首都圏の高齢者に限定せず首都圏居住者全体と広くとらえ、ケア中心の CCRC でなく、田舎と都会が役割を再構築する意味で「Countryside & City Reconstruct Community」の方がふさわしいとの重要な提言があった。定年後の気候温暖な南房総の住宅に移住しゴルフや農園を楽しみたい中高年層だけでなく、安価な住宅をセカンドハウスとして二地域居住にしたい若年層、また首都圏直下型地震など災害や戦争リスクを考え避難場所として使いたい全ての世代を顧客にできるからである。

平成 30 年度には広くコンセプトを公表し、一緒に事業を進める人や企業を募り推進協議会の組織づくりに着手したいと考えている。課題も山積している。サポーターとして多くの皆様方に参加していただければと願う次第である。